

## 1 市の概要（H30年度）

人口	81,116 人
保護率	2.4 %

## 2 支援状況調査（H30年度）

新規相談受付件数人口10万人当たり (件) 一月当たり	17.4
プラン作成件数人口10万人当たり (件) 一月当たり	4.2
就労支援対象者数人口10万人当たり (件) 一月当たり	1.6
就労・増収率(%)	50.0

## 3 実施方法について

実施方法	委託（単年度契約）
事業費	16,540千円（困窮：約5,524千円、被保護：11,016千円）
理由（委託）	業務遂行能力、企画提案の妥当性、所要経費の見積内容・金額など総合的に判断し選定。
課題・対応	<p>○就労準備支援事業への参加者数の増加により、ひきこもりの方が参加しにくい状況。 →少人数制（3名前後）のプログラムを新たに開発し、実施。また、男性が苦手な相談者もいることから、女性のみで実施する女子会を開始。</p> <p>○就労準備支援事業の参加により、就労につながる者が増加。定着支援（企業訪問や現場担当者・本人・支援員が参加する三者面談等）を実施しているが、根幹にある孤立の解消が困難。 →就労後の定着支援（孤立の防止・早期の危機介入）を目的に、就労を開始した者等を対象とした新規プログラムを開発し、2月に1度実施。</p>
事業概要	<p>○体験利用も可能。</p> <p>○多様なプログラムを用意（セミナー、ボランティア、就労体験、職場見学、居場所づくり、女子会、就労定着など）。</p> <p>○利用者のニーズ、状態に合わせてプログラムを実施。</p>
その他特記事項	自立相談支援事業・被保護就労支援事業・就労準備支援事業を一体的に実施。

## 4 事業実績（H30年度）

就労準備実績	利用者	就職者	福祉就労へのつなぎ	就労支援へのつなぎ
生活困窮者	45人	14人	1人	20人
被保護者	16人	2人	0人	12人

## 5 事業実施のポイント ～利用者像に合わせてプログラムを開発～

就労準備支援事業の対象者像は、支援をすることで少しずつ変化していき、そのニーズも変わる。また、人数が増えることで、プログラムの効果も変化するため、利用者像に合わせてプログラムを開発することが重要。

居場所づくり・通所訓練 女子会 りんくらボ	【女子会】グループ活動への参加が難しく、男性が苦手という方を対象B、りんくらボ 通う習慣を身B つけるためB 実施。（塗り絵・お茶会・アクセサリーづくりA 等） 【りんくらボ】グループ活動の参加が難しい方を対象B、アイビロづくりA と軽易A 仕事体験を実施。
生活自立支援訓練 たのしみ隊 まA び隊	【たのしみ隊】 毎週木曜日：9：30～12：00 ※居場所機能 レクリエーション活動を通して、生活習慣の改善や他者との関係づくりを学びます。 （例）家で手軽B 作れる料理教室・ゲーム大会・ヨガ・地域づくりの講話・季節の行事A と 【まA び隊】 毎週月曜日：10：00～12：00 ※居場所機能 基礎学力B 自信がA 不安を感じている人が、常用漢字、社会、四則計算A などを学びます。
社会自立支援訓練 たいけん隊 しごと見学隊	【たいけん隊】 不定期（月2～3回程度）※地域との※携 地域の行事やプロジェクト活動B 参加し、就労B 必要とされる自信、経験及び能力を身B つけます。 （例）商店街の各種活動、まちA かも市・プロジェクトクリスマス・教育大学あそびプロジェクトA と 【しごと見学隊】 職場を見学し、職種イメージづくりを行います。 （例）倉庫作業・ホテル室内清掃作業・清掃業・高齢者グループホーム・A型、B型事業所A 等
就労自立支援訓練 はたらき研 はたらき隊 パソコン隊	【はたらき研】 隔週火曜日 14：00～16：00 参加者同士やゲストの話しをきいたり・知識を身B つけA ながら、働くことB について考えます。 【はたらき隊】 随時 希望B 応じて、職場体験を実施します。（飲食店・ホテルの客室清掃A 等） 【パソコン隊】 パソコンの基本操作B について、個々の希望や習熟度B 応じて学ぶプログラムです。
就労定着支援 ゆるりんく	【ゆるりんく】 就労後の定着支援を目的B、就労開始者、プログラム卒業者を対象B、2月B 1度実施している。 （例）クレープづくり、焼肉、忘年会、ボーリング大会A 等

## 6 取り組んで良かったこと

就労に向けたプログラムを細く段階的に準備することで、多様な利用者の状態・ニーズに対応できる。また、無料職業紹介事業を活用し、独自に求人開拓を行い、職場見学・体験を実施することでミスマッチを防いでいる。

就労開始後の定着支援を目的としたプログラムを実施することで、孤立の解消や、早期の危機介入が可能になった。